

## 1 本校がめざす学校像

生徒が自分の中の生きる力を引き出し、自らの高校生活を創り出す。

そして一つのことを協力して推し進めていく。社会に役立つ人材の育成をめざす。

- 1 授業・講座を充実させ、1人でも多くの生徒が確実に進級・卒業そして希望の進路を決定できる学校。
- 2 課外活動を充実させ、個々の生徒が自分の能力を開花させることのできる学校。
- 3 教師は、生徒への指導には、厳しさと優しさの両面を持ち、生徒は、どのような場合にも正しい判断が出来るように成長する学校。
- 4 安全性を求め、危機管理能力を高め、生徒が安心して登校できる環境を備えた学校。
- 5 体罰・いじめ・各種ハラスメントの一扫をめざし、他人を気遣う心、思いやる心を養う学校。

## 2 中期的目標（到達目標として）

## 1 充実した授業展開のもと、学力面での成長を促す

- (1) 生徒が生き生きとさまざまな活動に取り組める前向きな「チャレンジ精神」を育成する。
- (2) 授業に対する生徒および保護者の評価を向上させる。
- (3) 中学校までの学び直しにも留意し、質問など生徒からのアクションに確実に応える。
- (4) 授業力向上のため、研究授業等の研修を取り入れ、教員間相互の連携を深める。
- (5) 落ち着いた授業環境の育成（授業前後の礼節を重んじ、教室内の美化意識を育て、教室内スタンダードを高める授業環境をめざす）

※ 保護者評価内の学習指導に関する項目の目標値をすべて80%の肯定率をめざす。

## 2 6つの各コースがそれぞれのオリジナリティを持ち、特色ある教育活動を実施する

## (1) 特進共通コース

入学した生徒に、自分の将来を真剣に考える機会を与え、平素の行動より、責任感の向上をめざす。授業に真摯に取り組むことにより2年生からの希望のコース選択決定に繋げる。またクラス運営上は、精華学園祭等の行事を通じて、仲間意識の向上をめざす。

いじめ・暴力等の問題行動が起きないように生徒指導にも力を注ぐ。

## (2) 特進選抜コース

特進選抜コースは、難関大学合格を目標に、個々の実力アップを目指すコースである。3年間コース変更を行わず、一貫した教育体制で受験に対応した実力を身につけていく。1年生では、授業を大切にし、予習・復習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着に力を注ぐ。2年生では、進学講座のさらなる充実を行い、模擬テストなどで受験意識を高め、応用力を養成する。そして、3年生では3年間の集大成として、志望校現役合格をめざす。

## (3) IT総合コース

ICT社会といわれる現代社会に対応すべく、情報に関するさまざまな知識やコンピュータの活用方法、実用的な技術を習得する。上級の情報に関する資格取得をめざすことによって自分を磨き、将来、就職や進学に活かし、即戦力となる人材を育成する。また、資格や技術の習得だけでなく、これからのICT社会に積極的に関わっていく人材にとって、最も大切なスキルの一つである「情報モラル」について学ぶ。

## (4) 環境福祉コース

堺市天濃池での実習を通じて、自然の美しさや力強さに感動したり、驚きや疑問を持つことで、自分も環境問題に意欲的に関わりを持とうとする態度を養う。幼稚園・保育園など地域で暮らす子どもや高齢者との交流を通じて、福祉活動の意味や役割に関心を持ち、思いやりの心を持って助け合う態度を育てる。

## (5) スポーツ健康コース

生涯に通じる心身の健康のあり方を学び、基礎体力の向上に取り組む。また、様々なスポーツを実践する・応援する・支える事で積極性のある行動力や思いやりを育てる。それらの経験により本当の喜び・協調性・感謝の気持ちを体得し、社会に貢献できる強い意志を持った生徒を育成する。

## (6) 特進総合コース

大学、短大、専門学校へ進学するための学力を身につけることをめざす。週31時間の授業に集中できる環境が整っており、模擬試験や検定試験などを通じて、学力の向上を図る。また、部活動との両立をめざし充実した高校生活を送る生徒を育成する。「自分の可能性を伸ばし将来のために頑張りたい」

「勉強も部活も頑張りたい」と感じている生徒を全面的にサポートする。

## 3 正しい基本的生活習慣を身に付け、全体の遅刻数を減少させ、生徒指導上の問題行動を抑制する

(1) 規律を通して、学校生活の基本を指導し、人間形成に努める。

**※ 懲戒件数については、26年度より減少させ、総数100件以下をめざす。**

(2) 問題行動に対する処分を重視せず、行き届いた指導によって素直な気持ちの生徒を育てる。

(3) 生徒会活動・学校行事・部活動などの課外活動を通じて、生徒が活躍できる場を提供する。

(4) 健全な心の育成をサポートする。

**※ 生徒指導のあり方**

・問題行動を起こさせない環境作りを第一とする。生徒への指導は、状況に応じ柔軟な態度で粘り強く行う。また指導後の生徒へのケアも十分に実施する。

・全教職員が同一の基準で生徒の健全育成に努め、体罰や威圧を用いることなく、生徒の正しい心を育てる。

・問題行動が発生した場合は、各コース内で協力態勢を組み、生徒指導部が中心となって即時に問題解決に当たる。

・学校生活の基本を重点的に指導する。生活習慣・人間関係・礼節など多岐にわたるが、日々気を抜くことなく生徒指導に関わる。

**4 進学実績を向上させる。特進選抜コース・特進総合コースを中心に、4年生大学への進学数を増加させる**

◎ 生徒一人ひとりの進路希望実現に向け、決め細かな指導を実践する。

(1) 進路指導部を中心に大学・短大への進学率及び進学実績向上に努める。

**※ 26年度38%より上昇させ、45%の進学率をめざす。**

(2) 就職希望者の進路決定に向け全力でサポートする。

**5 校舎等の耐震診断の結果を重視し、災害に備えた学校環境を構築する**

診断の結果、地震などの災害が発生した場合、校舎外壁に不安があることが発覚している。早急に改善計画を立案し、改修に当たる。

**6 教職員の職務を出来るだけ合理化し、学校運営を円滑に進める**

生徒の多様化が進み、教員はその対応力を求められている。個々の生徒への支援体制を強化する必要がある。各教員の職務は、本校でも多岐に渡るため、出来る限り合理化を推進し、生徒との教育相談時間の確保・増加へ結びつけたい。

## 【学校教育自己診断の結果と分析】

平成26年度の学校運営自己診断

(教職員自己評価アンケートをもとに)

建学の精神(教育目標)の浸透および愛校心の有無がいずれも低い数字になっている。残念ながら本校自身が現在の本校を否定したことになる。これは理事評議員会や校内役員会で取り上げなければならない事態であると思われる。今後本校は何をめざして教育活動を行うのか、どういった学校に成長しなければならないのか、どういった生徒を募集し、どのように生徒を育てていくのか。教育方針を打ち出し、将来のビジョンを明示しなければ教職員の一体感は生まれにくい。最大の課題であるのではないだろうか。

### ◎ 教育内容

情報教育や国際教育について、世間の動きは速く、本校は後塵を拝している。整備しなければならない課題も多いが、対応していかなければ私学としての価値が問われる。また人権教育や環境教育の分野においても課題が出ている。世間が私学を判断する基準は課外活動にある。授業の充実は当然であって真価にはならない。部活動についての評価は第1回の調査に比べて、半分の肯定率に低下した。頑張っている教員もたくさんいるなか、大変残念な結果であるが、直視して改革しなければならない。早急に学校としての方針を明示して進めなければならない。部活動は、1人の教員力に依存する時代ではなくなっている。組織的に強化しなければ活性化できない。

### ◎ 生徒指導・支援

本校の生徒指導については、定評がある。各コース内で問題行動が発生した場合、教員の指導は万全に近いものがある。いじめ・暴力行為等の重大事案に対応できる体制があると言える。しかし、コースを跨いで問題行動が発生した場合、その対応に苦慮している現状がある。生徒指導は、教員間の連携が大切であり、情報や問題意識を共有しなければうまくいかないことが多い。コース間の連携がうまくとれない場合などは、敏速に指導を進めることができていない。また、コースによって問題行動の発生数に開きがあり、生徒指導経験の少ない教員が多くなってしまっている現状もある。問題行動が複雑化し、重大事案が発生する可能性もないとは言えない。このような現状のなか、本校では教

員間の連携を更に強化する必要があると言える。また、学習支援・カウンセリング支援・進路支援については課題を明確にして取り組む。

#### ◎ 教員研修・資質向上

府の制度として、教員研修が企画され実施されている公立高校に比べ、どこの私学も評価が低くなっている項目である。本校では、初任者研修および中堅者研修を実施するようになったが、いずれも研修成果を共有する機会を設けることが出来ず、結果に表れていないように思う。以前に比べ、教員の連携が希薄になっているという声も聴かれ、初任者を全員が育てていくという体制づくりが必要である。また、各教科内での話し合いの機会やレベルの向上をめざした研修などが出来ていない。時間が限られたなかではあるが、教員の資質レベルアップのためには必要である。

#### ◎ 総合評価

自己診断については保護者評価に比べ教職員の自己評価が厳しい結果になっている。教職員個々の感覚もあり、一概には言えないが、こういった数字は無視してはならないと思われる。特に学校や学校長としての方針が明確になっていない項目に関しては、早急に方針を明示し、組織的に推進していかなければならない。私学間の競争が激しくなり、以前のように個々の教員力だけで活性化する時代ではない。校内組織の充実がなければ、どの項目も評価を上げることは困難であると言える。今後の学校は、生徒支援に力を入れなければならない。私学は特に考えなければならない。カウンセリング体制の強化・面倒見の良い進学支援はこれからの私学には欠かせない項目である。カウンセリング体制を充実させることは、退学率や転学率の減少にも繋がる項目であり、具体的にはカウンセラーの日数増加や支援コーディネーターの任用などは急務である。また自己評価からも本校の食堂に対する不満が明確になっている。今年度の食育項目の評価は、肯定率が1桁であり改善できないであろうか。食育＝食堂ではないが、食堂の改善は学校経営上の問題であると言える。メニューがどうか、価格がどうかの問題ではない。今の形態では、生徒募集にまで関わってしまう。学校自己評価が始まって、項目別に結果が数字化され、どの学校でも自校の弱点が明確になっている。学校経営および学校運営上、この結果をもとに改善していかなければならない。充実した教育活動を提供できない。将来に向けての明確な方針が必要である。

学校関係者評価会からの意見 [平成28年4月2日実施分]

出席者 堺市福田校区自治連合会長  
堺市西陶器校区自治連合会長  
堺市東陶器校区自治連合会長  
精華高等学校保護者会長  
精華高等学校同窓会長  
精華高等学校校長  
精華高等学校教頭  
精華高等学校教頭  
精華高等学校事務長  
精華高等学校教務部長  
精華高等学校生徒指導部長  
精華高等学校進路指導部長

校長挨拶 27年度入試において、過去にない進学実績を残すことができた。努力する生徒が増え、次年度に向けて更に向上させていきたい。

#### 27年度学校自己評価解説（校長）

- ◎ 保護者評価
  - 学校施設改修の要望が多い
    - トイレ・内壁の改修に順次着工していく（改修計画の説明）
  - 教員に対して良い評価を多くいただくことができた
- ◎ 教員評価
  - 昨年度に比べ、若干の数的改善は見られるものの全体の数値は低い
  - 特に「会議の有効性」「教職員間の意思疎通」の低評価をを問題視している
  - 取り組むべき課題が明確であり、順次改善をめざす
  - 生徒の多様化への対応が急務である
    - （個人への対応策・支援コーディネーターの採用・カウンセリング体制の整備）
  - 授業の充実

- ・不成立授業の改善
- ・無気力生徒への対応

#### 意見交換

- 校区会長) 平素の様子を学校職員はどのようにみているのか。以前に比べて、生徒が落ち着いたように感じている。服装の乱れがなくなってきた。学校全体のイメージが良くなっている。
- 保護者会長) 教員管理と学園の財務に関して、現状を聞きたい。
- 事務長) 財務状況は順調に回復傾向にあり、財源確保が見込めている。
- 校長) 教員管理については、昨年度発生した問題点を反省して、管理職の責任の下で再発防止に努めたい。
- 同窓会会長) 個々の生徒への対応を強化していただきたい。副担任の先生方の職務が重要ではないか。制服の変更が、良い影響を与えている。生徒は、自転車通学が多く、事故が心配である。指導を充実して、また保険制度への加入など、具体的は対策を願う。
- 校区会長) 地域内で問題行動を起こす生徒は多くなっているのか。
- 生徒指導部長) 全体数については減少傾向である。保護者の車での送迎が増加して、何時事故が発生してもおかしくない状況がある。学校前道路が狭く、向には中学校があるため、登下校時には、地域に大変迷惑を掛けている。しかし、保護者の送迎を規制しにくい。
- 校区会長) 小学校でも、保護者が車で送迎している。地域でも問題視している。
- 校区会長) 歩行者専用道路が必要ではないか。地域としても協力していきたい。広い道路ではグリーンベルト帯などが近年見られる。また、高校生の携帯電話を掛けながらの自転車運転など、心配なことが多い。
- 校区会長) 精華高校の外向けアピールに期待している。新しいクラブ活動なども学校の活性化に繋がるのではないか。
- 校長) 私学の魅力は、クラブ活動から始まる。活性化に取り組んでいきたい。
- 校区会長) 卒業式が毎年素晴らしい。また校区の中学校の卒業式も素晴らしかった。校区住民としても大変嬉しく思っている。

#### [まとめ]

- 校長) 学校長方針として、授業を充実することが、学校の基本である。  
本校独自のコース制を更に発展させ、特進選抜コースを中心とした進学実績の向上に取り組む。  
皆様の御協力と御指導をいただきたい。

学校運営計画表

	PLAN〔重点目標〕	DO〔具体的取り組み〕	CHECK〔自己評価〕	ACTION〔改善の為の方針〕
1	(1) 生徒が生き生きと取り組める前向きな「チャレンジ精神」を育成する。	公開授業期間を設け、開かれた教室環境を形成する。生徒が発言できるテーマをそれぞれの授業で設定し、参加型授業をめざす。	△ 生徒が興味・関心を持って授業に取り組めていない。授業による生徒に意識に差が生じている。	公開授業期間における教員の意識を向上させる。指導すべき項目の統一に取り組む。
	(2) 授業に対する生徒および保護者の評価を向上させる。	「教室内スタンダード」を明確にし、教員および生徒相互の意識の向上を図る。	△ 3割から4割の保護者が本校の授業に物足りなさを感じている。	解りやすい授業、丁寧な授業を意識しなければならない。教員研修見直しを図る。
	(3) 中学校までの学び直しにも留意し、質問など生徒からのアクションに確実に応える。	本校の生徒は、中学校時代にその能力を開花することが出来なかった生徒が多いと思われる。それぞれの教科の基礎力を見直し、放課後開講される「講座」を利用して意欲のある生徒の学力を伸ばさせる。	○ 多くの保護者の評価に、中学校時代より勉強に取り組む姿勢が良くなったという声が聞かれた。基礎知識を身に付けて、大学合格に結びついた生徒も多い。	放課後開催の講座への出席を促したい。特に基礎的な力を養成する講座を利用して、生徒の能力の向上を図る。
	(4) 授業力向上のため、研究授業等の研修を取り入れ、教員間相互の連携を深める。	教員の年齢幅も広がりを見せている今、教員間の連携が必要である。専任10年15年目の「中堅者研修」専任3年目までの「初任者研修」を実施し、積極的に研究授業を行い、OJTによりそれぞれのレベルアップをめざす。	○ 授業力向上をめざして、研究授業の機会を積極的に設け、多くの教員が参加した。また教科によっては、教員同士の意見交換が実施された。	28年度は、外部の学校評価関係者にも授業を公開して、更に教員の研鑽に励みたい。また、生徒がどう感じているかも意識していきたい。
	(5) 落ち着いた授業環境の育成	教務部・生徒指導部・進路指導部がそれぞれの立場から、授業の充実に取り組み、生徒の意識向上に繋げる。	△ 各コースにおける専門教科については概ね良い評価を頂くことが出来た。	各授業間の差をなくするため、各部の視点から、公開授業期間に巡回を行いたい。
【評価指針】保護者評価内の学習指導に関する項目の目標値をすべて80%の肯定率をめざす。			大きな目標として、授業全体のレベルアップに取り組み必要性を感じている。コース制のもと、充実しているないようも多いが、保護者評価の目標達成はいずれの項目でも出来なかった。具体的方針が必要である。更に努力を継続したい。	
2	6つの各コースがそれぞれのオリジナリティを持ち、特色ある教育活動を実施する			
	(1) 特進共通コース 〔1年〕 ・責任感の向上 ・授業意欲の向上 ・仲間意識の向上 ・規範意識の向上	自分の将来を真剣に考える機会を与え、平素の行動より、責任感の向上をめざす。授業に真摯に取り組むことにより2年生からの希望のコース選択決定に繋げる。またクラス運営上は、精華学園祭等の行事を通じて、仲間意識の向上をめざす。学内にいじめ・暴力等の問題行動が起きないように生徒指導にも力を注ぐ。	△ 学園祭文化の部において各クラスの団結がよく表れていた。大きな問題行動もなく順調に教育活動が展開された。しかし将来の進路への意識付けについては、もっと工夫しなければならない。	入学してくる生徒の多様性が顕著になっている。カウンセラーの常駐やソーシャルワーカーの採用など、きめ細やかな対応を心掛けていきたい。クラブ活動への加入率が低いため、クラブ紹介を充実させていきたい。
	(2) 特進選抜コース 〔1年〕 ・基礎学力の定着 〔2年〕 ・応用力の養成 〔3年〕 ・志望校合格	3年間コース変更を行わず、一貫した教育体制で段階的に受験に対応した実力を身につけていく。少人数のクラスの利点を生かし、個々の実力に対応した指導をめざす。 ◎課外活動である『講座』を有効的に活用していく。	○ 3年生の進学実績に向上が見られた。2年生1年生では意識の向上が見られる。しかし放課後の講座に参加しない生徒が多いことは残念である。	担任を通じて講座への参加を促していく。特に次の3年生に関して、工夫した進学指導が必要である。進路指導部とコース内の教員との連携を強化していきたい。
(3) IT総合コース 〔2～3年〕 ・実用的技術の習得 ・上級資格の取得	ICT社会といわれる現代に対応すべく、情報に関する知識や技術を習得する。本校のコンピュータールームを積極活用して実用的な学習をめざす。また外部専門学校等との	△ 外部専門学校での授業の充実など、前向きな工夫が見られたが、事前準備が完全なものではなかった。生徒	生徒の意識の向上のため、プレゼンテーション能力の習得にチャレンジしたい。いろいろな機会を与えることに	

	・情報モラルの学習	連携により、より進んだ環境のもと学習する。		の意識の向上が課題となった。	より、自ら成長することを目指す。
2	(4) 環境福祉コース [2～3年] ・外部実習の充実 ・福祉資格の取得	堺市天濃池での実習を通じて、環境問題に意欲的に関わりをもとうとする態度を養う。地域の幼稚園・保育園や高齢者との交流を通じて、福祉活動の意味や役割に関心を持ち、思いやりの心を持って助け合う態度を育てる。	○	交流やイベントへの参加などが定着し、充実した活動が出来ている。しかし生徒の苦手意識の克服などの課題も多い。生徒の多様性に対応したい。	事前指導に留意し、更に充実した活動が出来るように心掛ける。また外部施設などの依頼や要求に的確に応えられるコースをめざす。
	(5) スポーツ健康コース [2～3年] ・スーパーマラソンの実施・完走 ・基礎体力の向上 ・奉仕精神の向上	生涯に通じる心身の健康のあり方を学び、様々なスポーツを実践する・応援する・支える事で積極性のある行動力や思いやりを育てる。堺市小学校連合運動会での補助員・校内マラソン大会での生徒役員等を経験し、社会に貢献できる強い意志を持った生徒を育成する。	○	行事を通じて、生徒の成長を促すコース設計になっている。しかし、コース内でも生徒の意識には高低差が生じており、特にクラブ活動に参加していない生徒をどのように指導していくかが今後の課題である。	引き続き、堺市小学校の連合運動会の補助役員などを通じて、社会貢献ができる生徒を育む。また新行事耐寒登山を企画して、精神的な面からも育成していきたい。本年はオリンピックの年でもあり、大きく飛躍できるように心掛けたい。
	(6) 特進総合 [2～3年] ・生徒の意欲を伸長 ・希望進路の実現 ・進学意識の向上 ・部活動との両立	大学、短大、専門学校へ進学するための学力を身につけることをめざす。模擬試験や検定試験などを通じて、学力の向上を図る。総合的な学習の時間「マイ進路」で、個々の希望進路に合った学習を行う。	△	年間授業計画のもと、的確に活動ができています。しかし生徒の希望進路の実現に向けては、更に工夫が必要と考える。また生徒は、意欲的に部活動に参加している様子が見えかけた。	学力向上のため、計画的な模試の利用、放課後講座の充実を図りたい。引き続き、授業展開・学習教材の工夫を重ねる努力を行う。
	【評価指針】6月および11月に行われる保護者との三者懇談会での本校の授業についての意見を重視し、出された意見をもとに早期改善に取り組む。 ※目標 保護者評価における「学校は前期・後期・コース制など独自の教育活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定率をめざす。				この項目の肯定率は、89.1%と高い結果となった。コースによっては安定した教育活動ができています。しかし見直しが必要であるコースもあり、更なる努力が必要である。
3	(1) 遅刻数の減少	平成26年度の遅刻数を基準として、数的減少をめざす。 ア. 年間60回を超える生徒を出さない。 イ. 遅刻回数が60回を超えた生徒については、生徒指導部会で協議し、学校長より学校生活を見直す期間として「出席停止」措置を言い渡し生徒の反省を促す。	△	増加傾向にあった生徒の遅刻数が減少した。教員間の意思の統一と細かい取り組みの成果である。引き続き、更なる減少をめざし、取り組みたい。	前述したが、コースによって遅刻数のばらつきが見られる。基本的な生活習慣は、就職等の進路決定に迄大きな影響を及ぼすため、進路指導とも連携して、更に取り組んでいく。
	(2) 服装・頭髪指導の徹底	平成25年度入学生より新制服に移行した。このため教員が統一の基準で指導を行うことが重要である。 ア. 制服の改造が目立っているため徹底して指導を行う。発覚した場合は、新しい制服の購入も視野に入れる。 イ. 入学時の「頭髪に関する届出」の提出を徹底させ、平時は各コースで頭髪検	○	制服の一新により、イメージは良くなったという評価を地域等から頂いている。また新採用のパーカーはこの定着がすすみ、こちらも斬新で、新鮮なイメージが感じられる。	パーカーを合い服として採用したが、期間が短く、保護者等の要望として、期間の延長がある。学校としても、この要望の下、期間を再検討していきたい。また頭髪面については、担任を中心とした、日々の指導努力によるとこ

	<p>査を実施し悪い場合は再登校指導を行い改善する。</p> <p>ウ. 男子の長髪についても、今年度は徹底して改善していく。</p>		<p>勝手な着こなしをする場合も見られる。頭髮面は、日々の指導の下、黒髪の徹底を図れた。</p>	<p>ろが大きい。生徒指導部の基準で全校的に引き続き指導していく。</p>
(3) 生活規律週間の実施	<p>4月・6月・9月・10月・1月の5回、それぞれ1週間程度を生活規律週間として、全教員で登下校指導、交通マナー指導、校内巡回を行う。</p> <p>◎ 教員には個々の生徒への対応力が求められている。家庭環境・性格特性・健康状態等をしっかり見極めて指導を行っていく。また、家庭との連携、やむを得ない場合は、外部の関係機関と連携のうえ、指導を進めていかなければならない。</p>		<p>○ 全校的な一斉指導は、やはり効果的である。生徒と向き合う時間を長く取ることは、生徒の気持ちの安定にもつながり、それが授業にも影響する。</p> <p>また、保護者との連携状況も良好であったように思える。</p>	<p>交通マナーについて、地域等から苦情が多くあった。また実際に生徒が事故に遭うケースも発生した。由々しき事態である。交通安全講習会を工夫して、事故防止に努めなければならない。</p>
<p>【評価指針】6月および11月に行われる保護者との三者懇談会での本校の授業についての意見を重視し、出された意見をもとに早期改善に取り組む。</p> <p>※目標</p> <p>保護者評価における「学校の生徒指導の方針に理解・共感できる」の項目で、80%以上の肯定率をめざす。</p>			<p>保護者評価で81.3%の肯定率となった。概ね、目標を達成していると考えられる。</p>	<p>保護者や生徒の信頼を得るためには、生徒指導の充実が大切である。範囲は多岐にわたるが、問題行動の事前防止を目標に更に工夫していく必要がある。</p>
生徒一人ひとりの進路希望実現に向け、決め細かな指導を実践する。				
(1) 進路指導部を中心に大学・短大への進学率及び進学実績向上に努める。	<p>昨年度は、国公立大学への現役合格など成果が見られる。しかし全校的な底上げが必要な状況である。進学指導について、改善の余地があり、また生徒自身の進学意識の向上にも取り組む必要がある。</p> <p>※ 具体的目標</p> <p>ア. 効果的な進学講座の企画・運営</p> <p>イ. 模擬試験の有効活用</p> <p>ウ. 充実した進路説明会・講演会の実施</p> <p>エ. 的確な大学情報の収集</p> <p>オ. 指定校推薦の有効活用</p>		<p>○ 本校始まって以来、初めて同志社大学に合格し、進学実績向上の成果が見られた。しかし、進学をめざす上での改善点は、まだまだ残っている。そういう意味でも、学内に進学推進委員会を立ち上げ、教員間の意思統一を図った。</p>	<p>本校はコース制であるため、単に進学校でのシフトは難しい者がある。それでも、保護者や生徒の要望に応えるためには、更に工夫が必要である。本年度始まった「進路フェスタ」などは、今後伸ばしていきたい。</p> <p>また特進3コースの連携の下、情報の共有、目標値の設定・達成に尽力したい。</p>
(2) 就職希望者の進路決定に向け全力でサポートする。	<p>昨年度は、就職試験における1次合格率は59%にまで回復している。それでも中小企業への景気回復の好影響は感じにくい。こういった状況の中就職希望者の合格率の上昇に取り組む。</p> <p>※ 就職指導計画</p> <p>4月 担任・保護者・生徒への説明会実施</p> <p>5月 就職講座開講</p> <p>6月 保護者懇談会実施</p> <p>7月 夏季集中講座実施（求人票閲覧～）</p> <p>8月 受験企業の仮決定</p> <p>9月 受験直前指導（9/16～ 採用試験）</p>		<p>○ 就職指導計画は、予定通り実施された。就職希望生徒の取り組み方も良く、個々の希望職種に対応する講座が開講できた。概ね、目的を達成できたと考えられる。</p>	<p>就職先の選択は生徒にとって、非常に重要である。残念ながら、就職後の離職率も高い。在学中に、このあたりを視野に入れた指導を行う必要がある。就職指導計画を更に工夫して、特に面接指導は、回数を重ねるだけでなく、質問者を多様化するなどの対策を取りたい。</p>
<p>【評価指数】6月および11月に行われる保護者との三者懇談会での本校の授業についての意見を重視する。出された意見をもとに、早期改善に取り組む。</p> <p>・進学実績を分析し、次年度の課題とし、進学および就職目標数を決定する。</p> <p>※目標</p> <p>進学率45%をめざす。就職一次合格率70%をめざす。</p>			<p>○ 大学・短大の進学率は全体の41.3%に止まった。それでも関関同立への合格結果が出るなど伸ばしている点は評価される。また就職先決定者は47が試験合格し、第一次</p>	<p>今後行われる大学入試改革にどう対応していくかという大きな課題が出てきている。現行の目標達成とともに取り組んでいきたい。</p> <p>そのためには、生徒の意識付けが最重要であるように思え</p>

	<p>保護者評価における、進路指導関連の項目5つにおいて、すべて26年度より上昇させ、すべての項目で85%以上の肯定率をめざす。</p>		<p>合格率は81%であった。目標を達成したと言える。年度末保護者評価の肯定率はすべて70%台に止まり、目標達成はできなかった。</p>	<p>る。各講座の参加率を上昇させるための取り組みや、外部テストの結果を真剣に考えさせる機会を設けたい。</p>
5	<p>◎耐震診断結果 校舎自体に耐震工事の必要性はない。 但し、診断の結果、地震などの災害が発生した場合、校舎外壁に不安があることが発覚している。早急に改善計画を立案し、改修に当たる。</p>	<p>平成26年8月 校舎外壁工事着手 平成27年8月 校舎外壁工事完了予定 ◎未曾有の自然災害を経験し、想定外の状況に対応すべく、危機管理マニュアルの再構築を行った。この新しいマニュアルを、全教職員に周知し不測の事態に対応できる教職員組織を構築した。 ◎課題として、災害の際の備蓄品の準備があげられる。 ※危機管理委員会を発足させ、危機管理を組織的に推進していく</p>	<p>理事評議委員会において、正式に工事着工が決定され、現在具体的に計画が進んでいる。 それでも、生徒や保護者から一日も早い改修を望む声は大きく、本校における環境整備は急を要することに変わりはない。</p>	<p>熊本での震災を受けて、地域における学校の役割を痛感している。何ができ、どのような準備が必要かと真摯に向き合っていきたい。 危機管理委員会が発足して、議論の場ができたことは大きい。また、校舎内トイレに関しても、工事着工が正式に決定したため、生徒にとって使いやすい清潔感のあるトイレへの改修に向けて、計画実行を急ぎたい。</p>
	<p>外壁工事だけでなく、校舎全体に改修が必要な箇所が存在している。また、施設の充実のために、トイレ・食堂等の全面改装も急務である。保護者評価や来校者からも多くの意見が出ている。学校経営上の課題のため、理事長および理事評議委員会の方針のもと工事に着手していかなければならない。 ※目標 保護者評価の施設・設備および環境・衛生関連の項目の肯定率をすべて80%以上になるように計画する。</p>		<p>いずれの項目も肯定率は50~60%台と目標には遠く及ばなかった。それでも、トイレ改修への着工決定は、環境衛生面の悪影響は授業にも関連してくるだけに今後に期待できる。</p>	<p>大きな課題として、食育の見直しに取り組みたい。まずは生徒の昼食状況の調査を実施して、現状を確認し、その上で、食堂に関する本校の方針を決定していきたい。</p>
6	<p>各教員の職務は、多岐に渡るため、出来る限り合理化を推進し、生徒の教育相談や支援の時間の確保・増加へ結びつける。</p>	<p>明確な方針の策定 中長期的計画を明確に策定し、生徒支援に力を注ぐ。 ア. 学校運営の適正化を確立する ・校長のリーダーシップ ・適正な会議の運営 ・各校務分掌役割の明確化 ・校務運営委員会の活性化 イ. 新校務システム（情報処理）の導入により職務の合理化を図る ・情報管理を徹底して、情報処理（成績処理）を的確に行い、教員が余裕を持って生徒に対応できるシステムを構築する。 ・成績処理・成績管理・生徒記録等の校務システムの導入に向けての検討を開始する。 ※平成29年4月からの運用を目指す ウ. 管理職会議の実施 （週1回の管理職による会議を実施する） ・学校長、事務長、教頭のコミュニケーションを密にし、しっかりと連携のもと教育活動を推進する</p>	<p>ア 中期目標として、コース制の充実、大学進学実績の向上、部活動の活性化を掲げた。各種会議の効率化については、教職員の意識喚起を強く促した。会議の適正な運営については、改善の余地はある。運営委員会では、本校が抱える課題について、本質的な議論を重ねている。 △ イ 新校務システム導入に向けて、システムベンダを決定した。校内に委員会を設け、平成29年度稼働を目標に準備中である。不安視されていた、本校の情報管理について、対応した。 ウ 週初めの月曜日に管理職会議を実施して、方針の共通認識を持った。特に、事務室との連携が</p>	<p>長期ビジョンの策定を急ぐ。国が進める高大接続一体改革の理念に沿って、学校改革を進める。現在、世界的には第4次産業革命の時代ともいわれ、AI、人工知能、ビッグデータの時代で、産業のあり方、人々の暮らし方が大きく変わりつつある。また、仕事の中身、種類も変わる。それに対応出来るような人材育成が求められている。 学習指導要領の抜本的見直しに向けて、本校もICTの導入や、アクティブラーニングの導入が急がれる。また、本校独自の学び直しのシステムの構築も急務である。</p>

		<p>強くなったように思える。またこの連携を、校務運営委員会に繋げていければ、充実した教育活動ができる。</p>	
<p>【評価指標】</p> <p>ア. 学校運営の適正化  学校自己評価（2月実施）において、26年度評価より上昇させ、14項目すべてにおいて60%以上の肯定率をめざす。</p> <p>イ. 校務システムの合理化  平成29年4月の運用をめざす。本年度においては、実際のシステムの研究を行い、本校の現状にマッチしたものを、選択する。</p> <p>ウ. 管理職会議の実施  有効な会議を開催する。  自己評価項目を平成26年度評価より上昇させる。</p>		<p>ア 自己評価の結果は、いずれの目標を達成することができなかった。</p> <p>イ システムベンダを選択し終わったことにより、今後詳しいシステム作りへとフェーズが移項する。情報管理の合理化と安全強化をめざす。</p> <p>ウ 有効な会議についての評価は目標に達成することができなかった。</p>	<p>教員による自己評価の結果は、低い肯定率である。残念な結果であるが、真摯に受け止め、低い項目の原因を精査する必要がある。</p> <p>特に有効な会議については評価は低く、根本的に考え、対策を教職員に示したい。</p> <p>校長のリーダーシップは、学校の根本を支える。役立つ内容の研修を活用していく。また生徒の満足感を高揚させるため、授業の充実と行事と活性化をめざす。</p>